

## ■ 倉田のり遺伝研名誉教授経歴

国立遺伝学研究所 名誉教授

総合研究大学院大学 名誉教授

遺伝育種学、植物ゲノム科学、植物生理学

昭和48年 九州大学理学部卒業

同 56年 九州大学大学院農学研究科博士課程修了

同 56年 農学博士(九州大学)

同 56年 日本学術振興会奨励研究員

同 58年 三菱化成生命科学研究所特別研究員

同 60年 藤田学園保健衛生大学医学部助手

平成 元年 藤田学園保健衛生大学医学部講師

同 3年 農林水産省農業生物資源研究所主任研究官

同 8年 国立遺伝学研究所助教授、総合研究大学院大学助教授

同 15年 国立遺伝学研究所教授、総合研究大学院大学教授

同 21年 国立遺伝学研究所副所長

同 25年 国立遺伝学研究所生物遺伝資源センター長

同 28年 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構理事

同 28年 国立遺伝学研究所名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授

昭和61年 日本育種学会賞

平成15年 日本育種学会特別賞

同 23年 米国科学振興財団協会(AAAS) Fellow

## ■ 功績概要

「イネのゲノム情報基盤の確立と生殖・多様性研究」に関する功績

イネ 12本の染色体を初めて識別同定し、染色体に織り込まれた遺伝情報を解き明かすため、国際連携によるイネゲノムプロジェクト研究に参画した。イネの遺伝地図作成やイネ属植物との比較地図作成等ゲノム解読に大きく貢献するとともに、ゲノム情報が整ったイネを用いて、生殖隔離のメカニズムや生殖器官形成で働く遺伝子の機能を解明した。また、世界各地から収集した栽培イネと野生イネのゲノム解析により、イネの栽培化の起源地や、その起源地の野生種から現在日本で栽培されているジャポニカ種が生まれたことを突き止めた。さらに、熱帯や亜熱帯地方で収集された野生イネ 21種にわたる約 1700系統の整備及び分譲体制を確立し、それらの多様性と進化研究を進め、イネの多様な品種改良の研究基盤構築にも尽力するなど植物研究者のコミュニティの発展に寄与した。これらの成果により、食糧の安定的な生産につながる植物科学や植物遺伝学の発展に大きく貢献した。